

平成 19 年 9 月 23 日

超臨界流体部会第 13 回部会集会 議事録

日時:平成 19 年 9 月 13 日(木) 18:30~20:30

場所:チサンホテル札幌(札幌市)

参加:59 名 内学生 2 人

佐古部会長、開会を宣言。以下の部会集会の議事進行は岡島による。

報告事項

1. 第 6 回サマースクール報告

標記の件について、岩井幹事より参加人数や概要等が報告された。

2. 化学工学<特集>化学工学年鑑 2007

標記の件について、佐古部会長より経過報告と、「2. 基礎物性」に関する原稿は栗原清文先生から児玉大輔先生に執筆者が変更になったことが報告された。

3. 平成 19 年度会員数(平成 19 年 3 月 10 日より)

佐古部会長から現状説明。特に企業会員の減少が目立ち、今後いかに企業会員を増やすかが大きな課題であることが報告された。

4. 秋季大会シンポジウム報告

滝島幹事より、第 39 回秋季大会シンポジウムについて、今回は全体で 92 件の発表と大変盛況であること等、進行状況について報告された。

5. 超臨界流体部会活動成果集(ワーキンググループ活動報告書 No.4)

佐古部会長より、印刷に 1 ヶ月程度を要するので 11 月には出版予定であること等、現状報告があった。

6. 最近の化学工学講習会

船造副部会長より、テキスト出版は、9 月 14 日に原稿締め切り、その後担当者に形式チェック等の査読をお願いしてから印刷、著者のゲラ稿チェック後に出版される流れであること等、現状報告があった。

7. 教科書「新化学工学体系化」

船造副部長より、原稿締め切りが8月末だったが、まだすべての原稿が集まっていないこと等の現状が報告された。また、秋季大会3日目の9月15日の昼休みに編集委員会を開催することも報告された。

8. 静岡大学からの外注調査依頼について

岡島より、静岡大学工学部から従来のバイオマス廃棄物処理法についての環境影響、経済評価等に関する調査依頼(地域新生コンソーシアム研究開発事業)があることが説明され、部長と副部長で担当者5名程度を推薦して、調査を行うことで承認された。

9. 共催事業

佐藤幹事より、超臨界流体部会／産総研GIC合同講演会(部会の産学官交流事業の一環)について、時期や概要などについて説明された。

10. 関連国際会議

(1)PPEPPD2007

猪股幹事より、経過報告と協力に対するお礼が述べられた。また次回は2010年に中国で開催予定であることが説明された。

(2)SuperGreen2007

後藤(元)幹事より、経過報告と、発表申し込み締め切りを9月15日まで延期したが、9月中ならば受付可能であること、また次回は2009年に日本で開催の可能性があると説明された。

11. 平成20年度活動計画

佐古部長より、化学工学会第73年会について説明がなされ、年会は本部主催であることから部会の担当者は特におかないことが確認された。

12. その他

佐古部長より、生島副部長の死去に伴い、新副部長に鈴木明氏(産総研)、単位操作WGの新リーダーに川崎慎一郎氏(産総研)を推選するとの説明があり、了承された。

報告、審議終了。懇親会が開催された。

懇親会中、今回のシンポジウムの展望講演者である山本博志氏(旭硝子)、McCabe Clare氏(Vanderbilt U.)、中村真氏(ダイダン株)、内田博久氏(信州大学)、葭田真昭氏(宇都宮大学)からの挨拶と、新会員である古田智史氏(株)ジャパンエナジー)、泉水仁氏(熊本大学)、大田昌樹氏(東北大学)、村松重緒氏(静岡県工業技術研究所)から自己紹介していただいた。

懇親会終了後、山田副部長と栃木先生の挨拶で閉会。

以上